

# 平成 30 年度全国学力・学習状況調査における柏市の調査結果の概要

学校教育部学校教育課

## 柏市の今年度の結果

各調査の平均正答率(小数点以下四捨五入)及び標準化得点は下表のとおりです。小学校, 中学校共に, 概ね全国平均と同程度でした。

※「標準化得点」とは, 柏市の平均正答率を, 全国平均正答率を100として換算した値です。

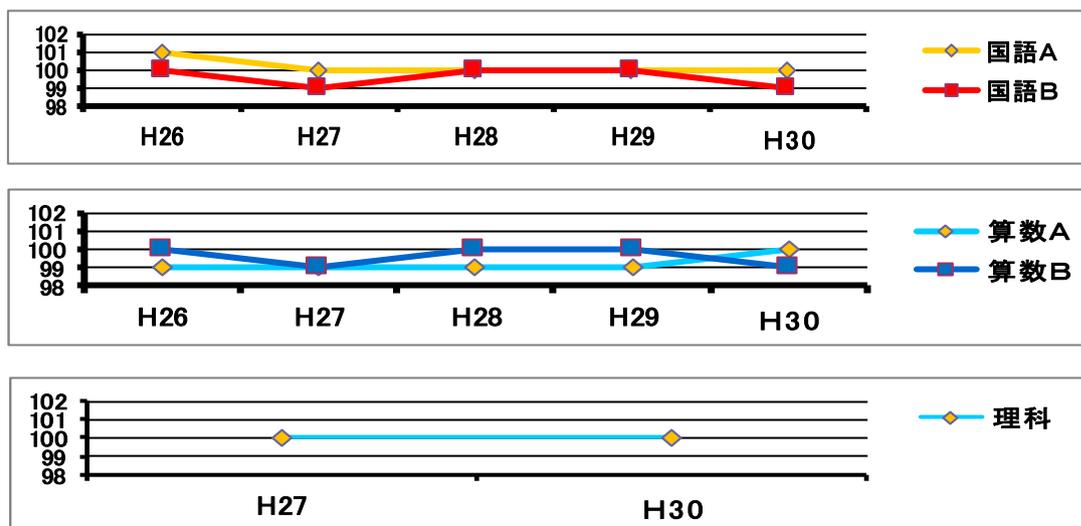
過去の調査の標準化得点と比較することで, 柏市の経年変化のおおよその傾向を把握することができます。

		小学校					中学校				
		国語A	国語B	算数A	算数B	理科	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
全国	平均正答率 (%)	71	55	64	52	60	76	61	66	47	66
柏市	平均正答率 (%)	70	53	63	50	61	75	61	66	47	65
	標準化得点	100	99	100	99	100	99	100	100	100	99

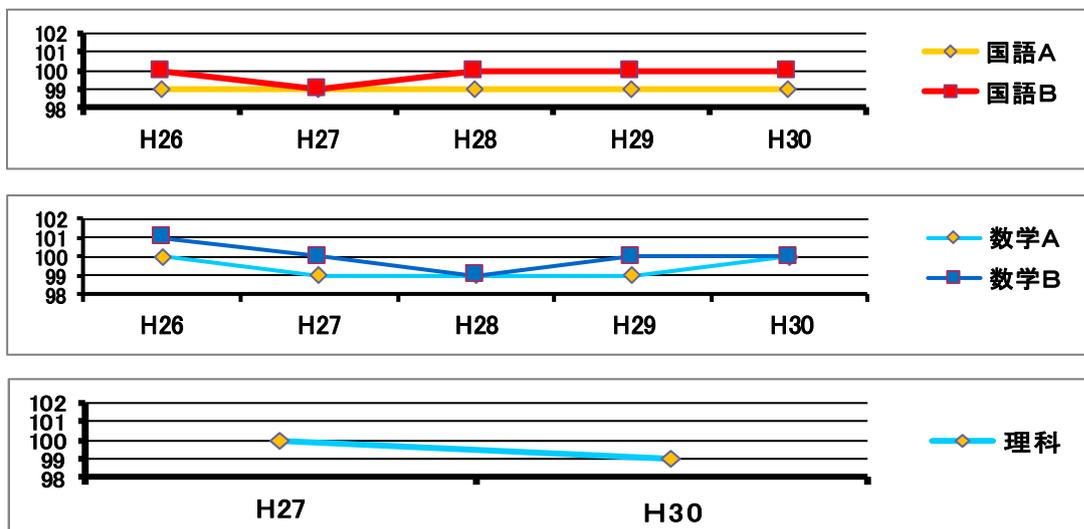
## 柏市の標準化得点の推移 (平成26年度～30年度)

平成26年度以降, 概ね全国平均と同程度の結果で推移しています。

### 【小学校】



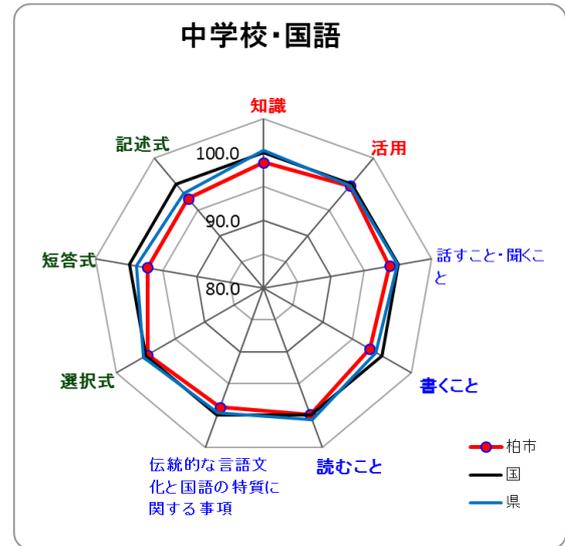
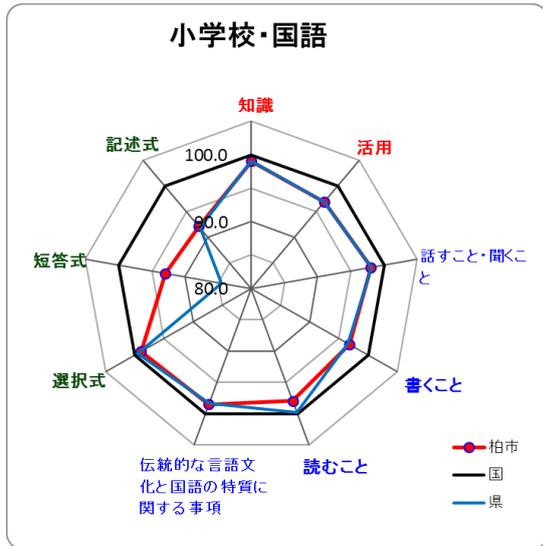
### 【中学校】



## 教科の傾向と課題 について

※標準化得点 <全国平均正答率を100とした場合の、柏市の平均正答率（赤）>を表しています。

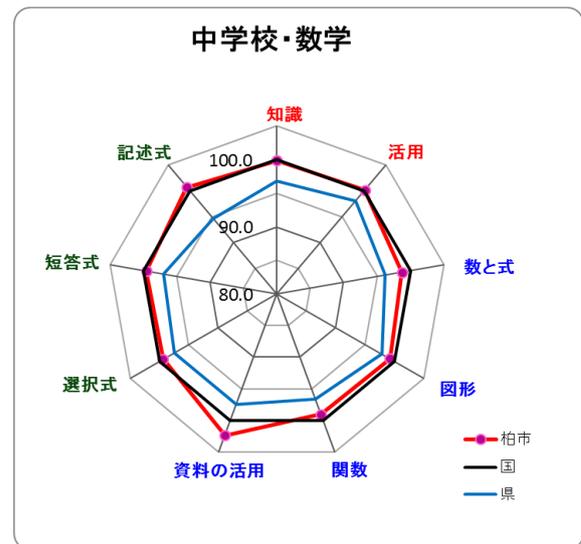
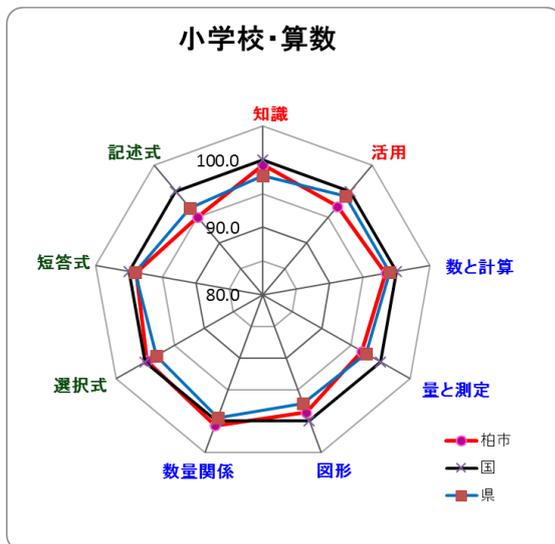
※課題への詳細な対応策は、「平成30年度柏市学力・学習状況調査結果報告及び改善案」をご覧ください。



内容全体として、概ね全国と同程度です。昨年度の課題であった「話すこと・聞くこと」の領域に、向上が見られました。問題形式別では、記述式が昨年度同様、全国平均の9割程度であり、短答式に顕著な落ち込みが見られました。

どの項目についても、全国とほぼ同等の結果が得られました。昨年度落ち込んでいた、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が大きく向上しました。二文を一文に直す問題や、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す問題に課題が見られました。

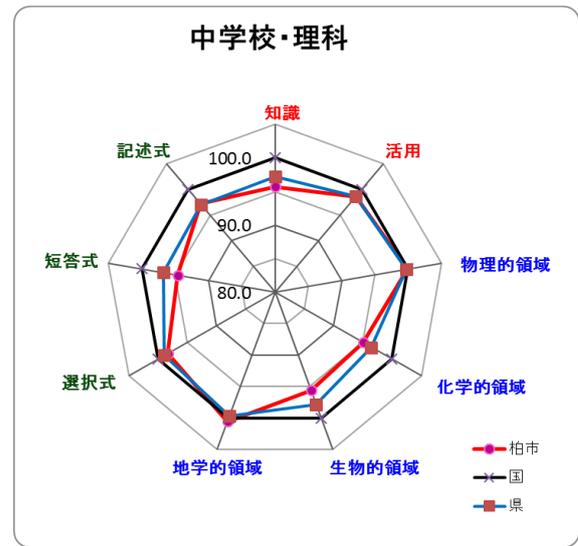
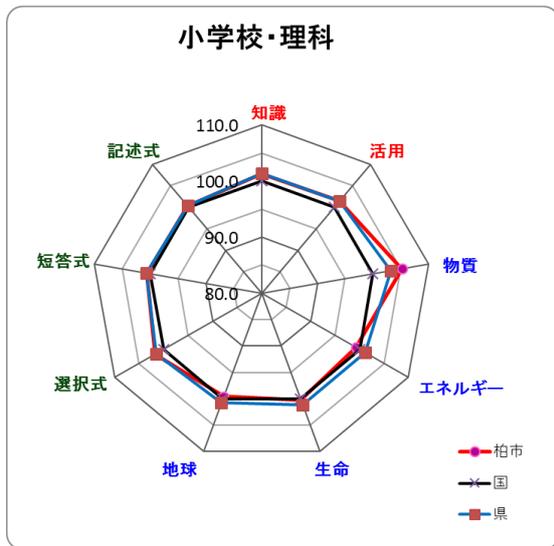
小中ともに「漢字の書き取り」に課題が見られました。確実な定着に向けて、指導の徹底を図ります。各時間に身に付ける力を、児童生徒が自覚しながら、主体的に学習に臨めるよう努めます。



知識を問う問題については、ほぼ全国平均に達しています。領域別では、「数と計算」「数量関係」で、昨年度から向上が見られた一方、「量と測定」に課題が残りました。問題形式では、短答式、記述式ともに、少しずつ全国平均に近づいています。

昨年度から大きな向上が見られ、どの項目についても全国とほぼ同等の結果となっています。「資料の活用」については、全国を大幅に上りました。課題であった記述式も改善が見られ、良好な状況と言えます。

各自で問題を解決した後、友達どうして問題解決の方法を説明し合ったり、新たな解答方法や問いを見い出したりと、児童生徒の学び合いにより、理解をさらに深められるよう、指導改善に努めます。



知識・活用ともに全国とほぼ同等の結果となっています。平成27年度と同じく、「物質」領域が柏市の強みと言えます。問題別に見ると、実験の手順や結果の考察、まとめの書き方がしっかりと身に付いていることがわかります。

活用の問題に比べ、知識を問う問題の方が、全国との差が大きくなっています。領域別では、「化学的領域」「生物的領域」に課題が見られます。平成27年度と比較すると、記述式は向上したものの、短答式が下回っております。

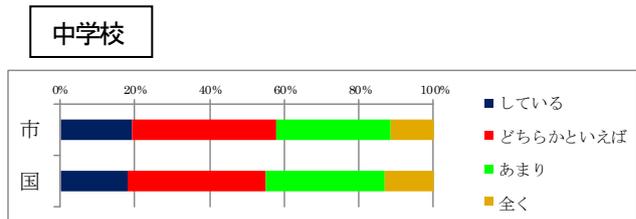
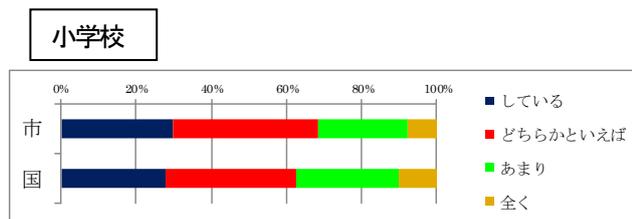
実験にあたっては、単に結果やまとめを記録させるだけでなく、実験の進め方や考え方が間違っていないか振り返らせたり、学んだことを日常生活に生かせないかを考えさせたりすることを指導していきます。

## 生活習慣や学習環境等 について (児童・生徒質問紙調査から)

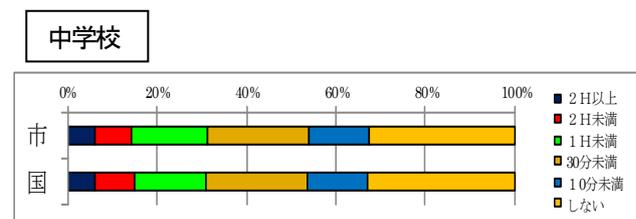
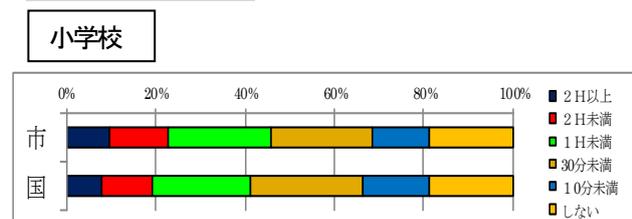
### 【家庭学習について】

予習・復習については、小中学校ともに、肯定的回答（している）の割合が国より高くなっています。また、授業時間以外で30分以上読書している割合は、国と比較して、中学校は同程度、小学校では高く、昨年に引き続き良好な状況です。学習時間は、2時間以上の割合が国より多い一方で、「しない」と回答する子供もおり、二極化していることが課題です。

### ◆家で、学校の授業の予習・復習をしているか

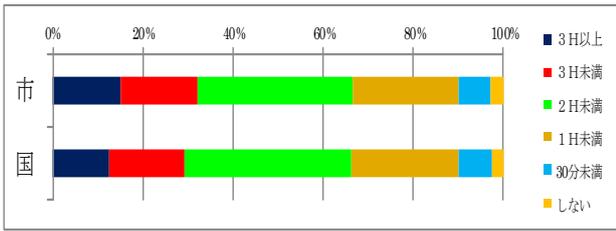


### ◆学校の授業時間以外で、普段（月～金）、1日当たりどれくらいの時間、読書をするか（教科書、参考書、漫画、雑誌は除く）

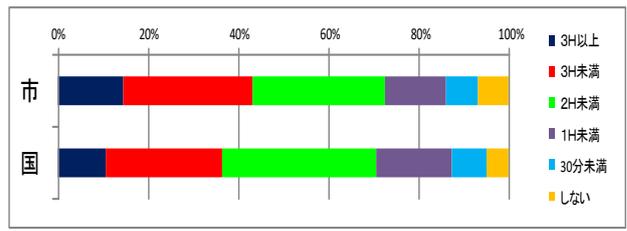


◆学校の授業時間以外で、普段（月～金），1日当たりどれくらい勉強するか（塾・家庭教師含む）

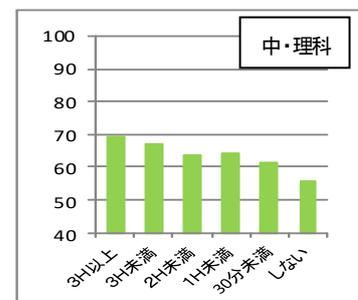
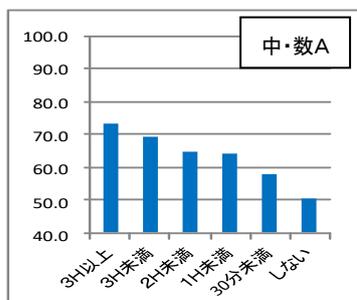
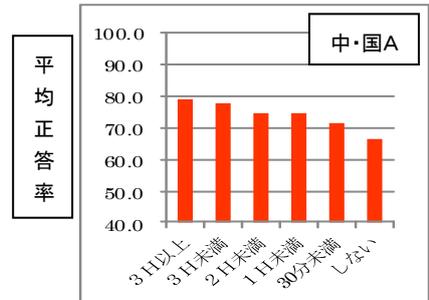
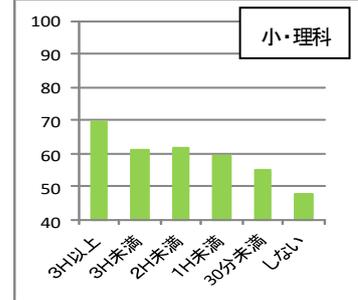
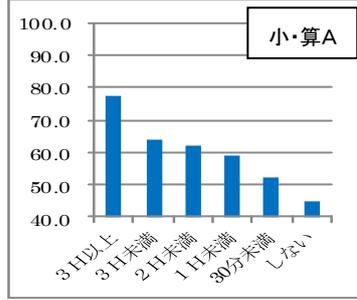
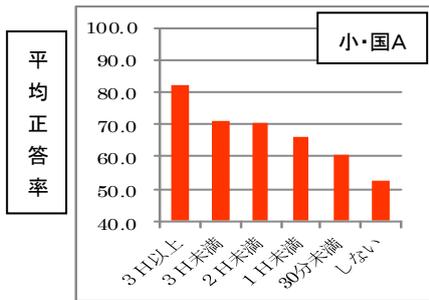
小学校



中学校

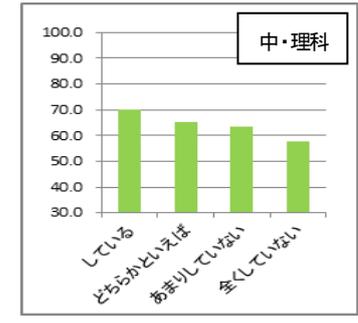
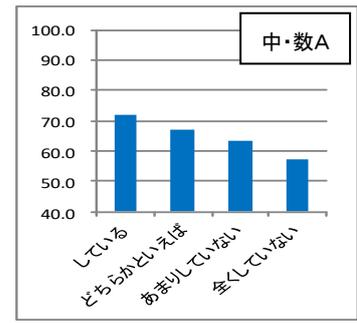
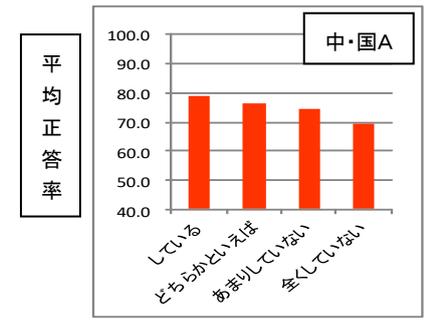
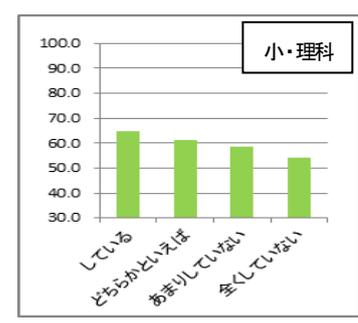
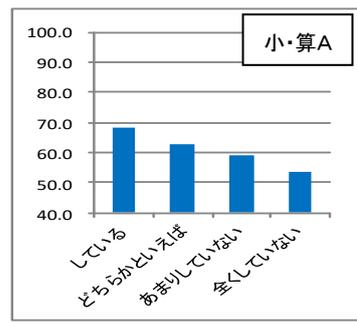
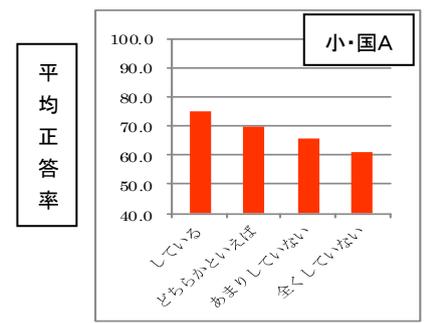


家庭学習の時間と、国語A、算数・数学A、理科の正答率の関係



\* 家庭学習の時間が長い子供のほうが、平均正答率が高い傾向にあります。

◆家で、自分で計画を立てて勉強しているか。（正答率との関係）



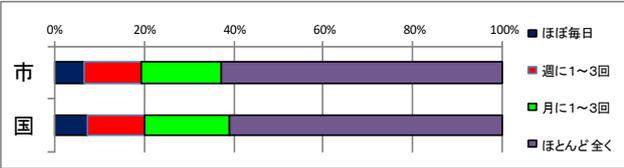
\*家で、自分で計画を立てて勉強している子供のほうが、平均正答率が高い傾向にあります。

## 【地域・社会への関心】

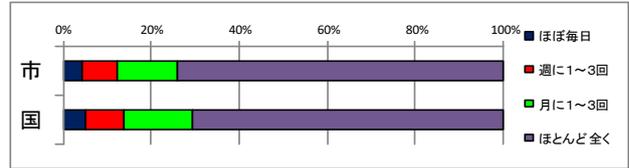
地域や社会で起こっている問題や出来事への関心は、年々下がってきていますが、「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがあるか」の質問には、国に比べ、肯定的な回答が多く得られています。

### ◆新聞を読んでいるか

小学校

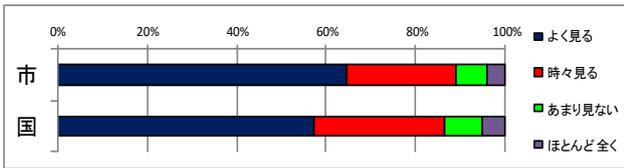


中学校

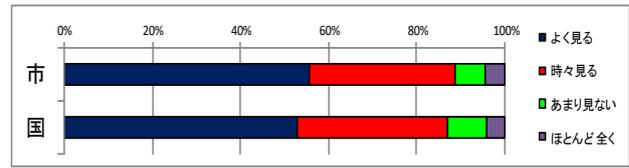


### ◆テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見るか（携帯電話やスマートフォンの使用を含む）

小学校

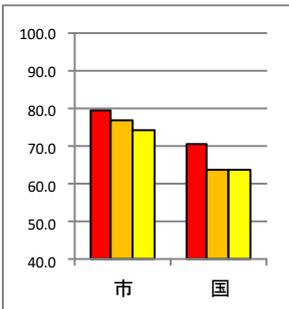


中学校

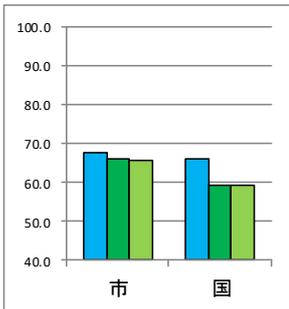


### ◆地域や社会で起こっている問題や出来事に関心はあるか（肯定的回答）

小学校 (左 H28 中 H29 右 H30)

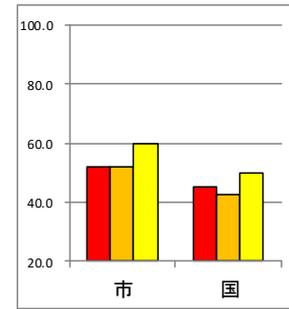


中学校 (左 H28 中 H29 右 H30)

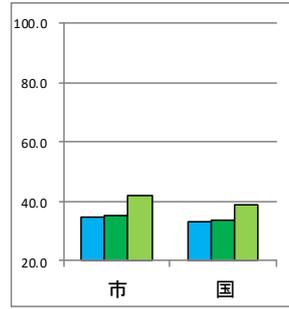


### ◆地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある（肯定的回答）

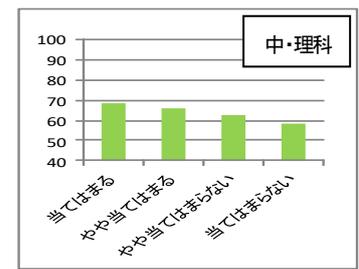
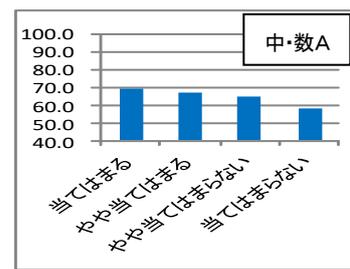
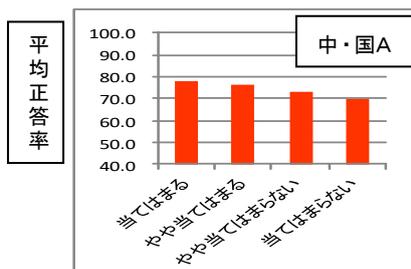
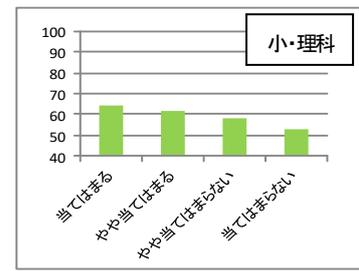
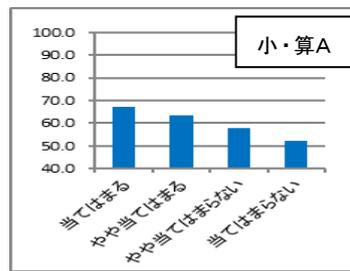
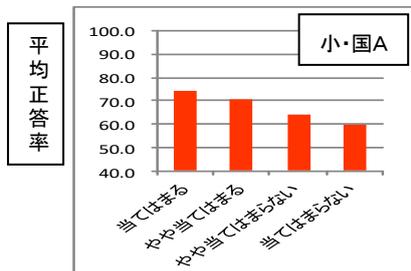
小学校 (左 H27 中 H29 右 H30)



中学校 (左 H27 中 H29 右 H30)



## 地域や社会で起こっている問題や出来事への関心と、国語A、算数・数学A、理科の正答率の関係



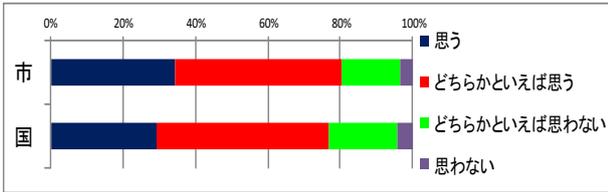
\* 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心のある子供のほうが、平均正答率が高い傾向にあります。

## 【主体性・話し合い活動】

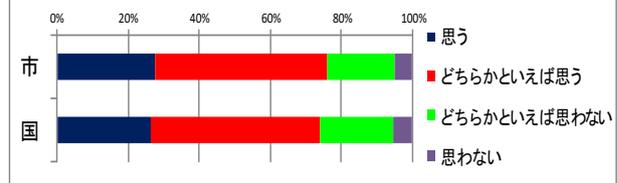
授業中、課題の解決に向けて、自分で考え取り組んでいると肯定的回答をした子供が、小中ともに国を上回っています。また、各学校においては、子供主体の話し合いを取り入れた授業作りに努めており、考えの深まりや広がりを感じることができています。

### ◆前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思うか

小学校

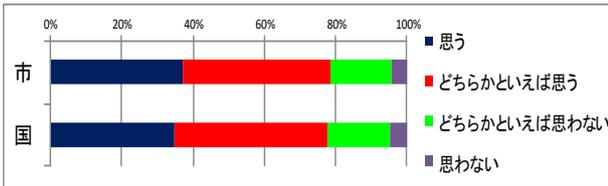


中学校

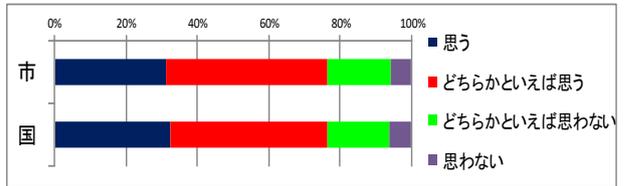


### ◆児童（生徒）間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思うか

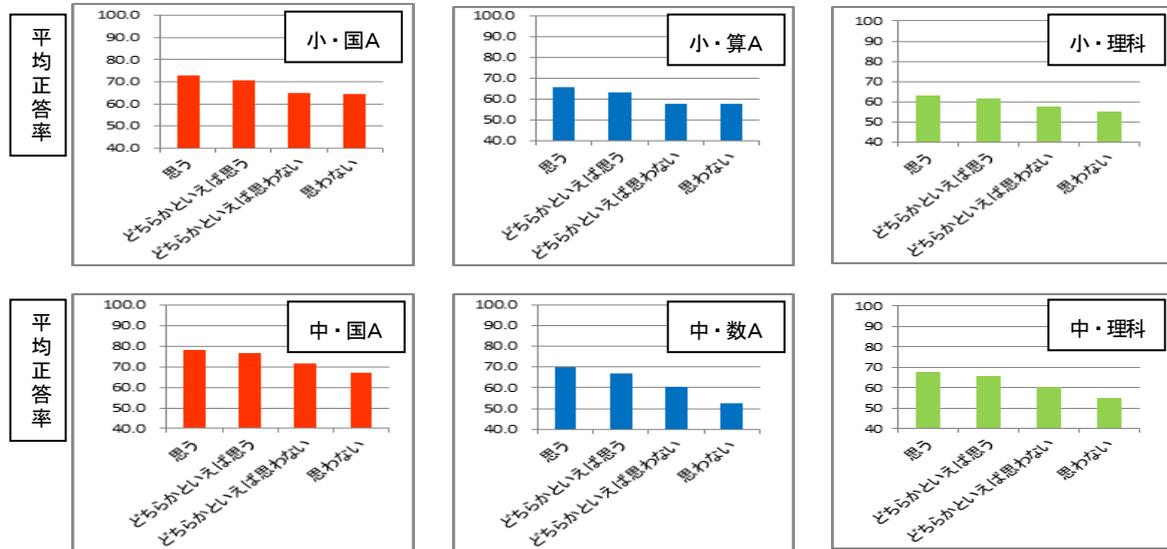
小学校



中学校



### 話し合い活動を通じた考えの広がり、国語A、算数・数学A、理科の正答率の関係



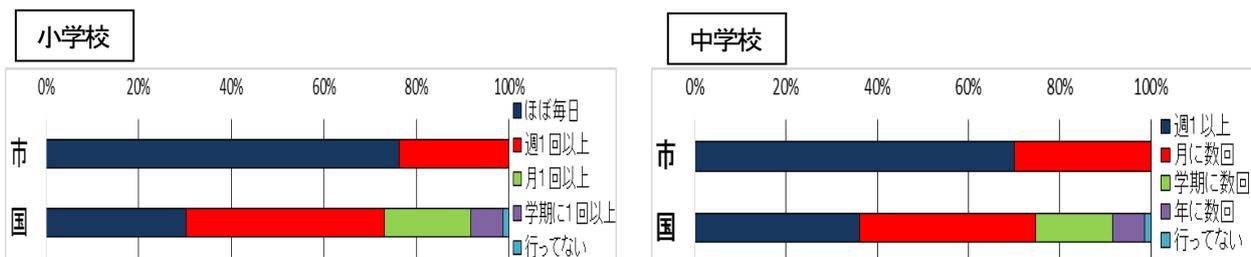
\*話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると感じている子供のほうが、平均正答率が高い傾向にあります。

## 学校の取組について（学校質問紙調査から）

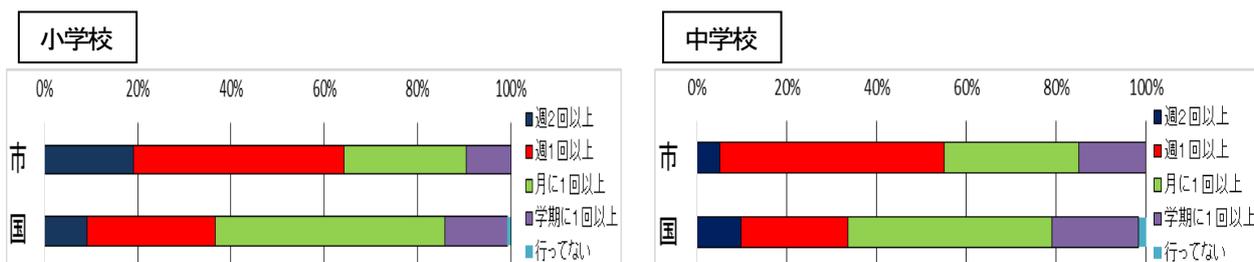
### 【授業での ICT 機器の活用について】（昨年度の小学5年・中学2年において）

小学校・中学校ともに、国よりも高い水準で、ICT機器を活用した授業を行っています。特に、算数や数学の授業での活用が顕著です。今後もICT機器を効果的に活用したわかりやすい授業を展開するとともに、ICT機器を活用し子ども同士が教え合い学び合う学習を推進していきます。

### ◆調査対象学年の児童生徒に対する指導において、前年度に教員が大型提示装置（プロジェクター、電子黒板等）等のICTを活用した授業を1クラス当たりどの程度行ったか



### ◆調査対象学年の児童生徒に対する指導において、前年度に、児童生徒がコンピュータ等のICTを活用する学習活動を1クラス当たりどの程度行ったか



#### ※ 全国学力・学習状況調査の分析結果について

本調査は必ずしも過去の学習内容全体を網羅するものではなく、把握できるのは、あくまでも個々の学力の特定の一部であることを申し添えます。

#### ★ 柏市教育委員会の、学力向上への取組について

全国学力・学習状況調査は、小学校6年生・中学校3年生を対象とした調査ですが、柏市教育委員会では、児童生徒の毎年の状況を継続的に把握するため、平成24年度から独自に小学校2年生から中学校3年生までを対象とした柏市学力・学習状況調査（以下柏市調査と表記）を実施しています。

つきましては、柏市教育委員会における学力向上への取組は、柏市調査の結果分析を踏まえて計画・実施していますので、その詳細は「平成30年度柏市学力・学習状況調査結果報告及び改善案『学ぶ意欲と学ぶ習慣を育む』」(<http://www.city.kashiwa.lg.jp/soshiki/270100/p037779.html>)をご覧ください。